

東方政策の30年と今後の展望

日 時：2012年12月16日(土) 場 所：立教大学

主 催：日本マレーシア学会

開会挨拶

宮崎 恒二

日本マレーシア学会会長／東京外国語大学

皆様、本日はお忙しい中、ご来場くださりありがとうございます。日本マレーシア学会(JAMS)では、昨日より第21回研究大会を開催しておりますが、本日は特別企画として、本国際シンポジウム「東方政策の30年」を開催いたします。1982年にマハティル・モハマッド元首相により提唱されたルック・イースト・ポリシーの30周年を記念し、その意義と今後の課題を探るという意図で本シンポジウムを企画いたしました。

開催に当たりましては、関係各機関・組織のご協力を得ました。地域研究コンソーシアム(JCAS)社会連携プロジェクト「地域研究と外交実践の連携プロジェクト」(代表：川端隆史)、京都大学東南アジア研究所公募共同研究「教育・研究交流を通じた東アジアにおける産官学ネットワークの社会的影響の評価：東方政策の30年を振り返って」(代表：金子芳樹)の2つの研究プロジェクトのご協力を得たほか、特に外務省の全面的なご協力を得て、本日は、南東アジア第二課の山本敏生課長に基調講演をお願いしております。また、東方政策元留学生同窓会(ALEPS)アクマル・アブ・ハッサンさんには、元東方政策留学生としてご参加頂き、コメントをお願いしております。心から御礼申し上げます。

今日は、基調講演、パネリストの報告、ディスカッションと、東方政策の30年と今後の展望について、ともに考え、マレーシアに関する理解を深めていく機会となるようお願いしております。

趣旨説明

川端 隆史

東京外国語大学

今日のシンポジウムを企画するに至った経緯をお話したいと思います。ルックイースト政策30周年ということで、今年さまざまな行事が行われています。JAMSとしても、外務省からご理解やご協力をいただきながら、政策に近いところで研究を進めてきました。外務省が私の古巣だという以上に、JAMSが積み重ねてきた活動実績に対する信頼があってこそ、外務省という重要な官庁の支援と理解が得られてここまで来たのだと思います。

今年4月と5月には、アジアの青年を日本にお招きするジェネシスというプログラムでマレーシアの人たちが来日したわけですが、JAMSから吉村真子会員や私が来日を仕上げる総括的な意見交換会に講師・司会役として出席する依頼を外務省から頂きました。そして6月、外務省にはJAMSの若手研究者をマレーシアに派遣していただき、私を含む若手研究者数名が、マレーシアで開催されたルックイースト政策のシンポジウムで発表したり、ルックイースト政策と関連の深い組織に訪問したりするなどの活動をしてきました。

このように、JAMSは学術団体としてさまざまな専門の見地からルックイースト政策について取り組んでおり、今日の午後のセッションはその成果を報告する場の一つとなります。また、JAMSの活動で非常にユニークな点として、私のように実務をベースとしながらも研究に携わる者にも重要な役割をさせてくれるという懐の深さがあり、社会連携を積極的に進めようとしています。

アカデミックの分野では、ルックイースト政策に関する研究の蓄積が各種の報告書として出されてい